



写真2：笛を吹くKさん



写真1：「荒波」

1 絵画「荒海」、入賞する

平成25年度、日本美術協会に出品された大高孝雄氏による絵画（写真1）がこの度入賞されました。誠にありがとうございます。

同氏は八峰白神ジオパーク設立当初からジオパークに興味・関心を示され、各ジオポイントをご案内してきました。その都度作品を描かれ、現在八峰白神ジオパーク推進室に保管されております。この度の入賞作品はその中の1枚です。絵画に付けられた解説文を以下に転載します。

世界自然遺産「白神山地」認定から20年となりました。そして昨年、わが町の海岸等が「八峰白神ジオパーク」として日本ジオパーク認定をうけました。ジオパークの一部を占めるこの写生地は自然状態がよく保存されています。硬い安山岩や比較的軟らかい凝灰岩がごつちや混ぜになつていて、海の波は軟らかいところを削り取ります。

荒れる海に代表される海岸風景や白神の山並みは生涯描きたいテーマであり挑戦し続けたいと思います。

（原文のまま）

2 風景の舞台、鳶の沢・笛滝・モジヨマ

昨年、「笛滝をみたい」と大高氏から声がかかり、早速現地を案内しました。笛滝は鳶の沢を流れる水が海岸段丘の崖を落下する場所（写真1の左手）にあります。落差は7〜8mあり、こんもりとした林に包まれております。ここで笛の練習をすると上達すると言いつたに伝えられていて、滝の右側の斜面に祀られている石像の手にはしっかりと横笛が抱えられています。

昨年、秋田市にある国際教養大学の学生十数名をこの笛滝に案内しました。簡単な解説をしたあと、八森在住のKさんに横笛を吹いてもらいました（写真2）。笛の音色は澄み切っており、こんもりとした林を流れる滝の音とマッチして、まるで別世界にたどり着いた

ような感じでした。

この感触は住む国が違つていても相共通するものであるらしく、少ししたら自分たちも吹きはじめました。数本持参した横笛を交代で吹き始めると、初めはピー、ピーとだけ鳴っていた笛がやがてきれいな音となって鳶の沢に響きわたりました。残念ながら、Kさんが持参してくれた横笛はそれぞれ音調がちがつていたので、この賑やかな雑音にはさすがの笛滝の神様も目をまわしたことでしよう。

笛吹き体験終了後、海岸に向かいました。海が穏やかな日で、透き通った海に感動し、写真1中の左手にみられる砂利浜を散策しました。後で岩館在住のOさんに聞いた話ですが、遠景にみられるチゴキ灯台の海岸を「モジヨマ」、さらにその手前にみられるとんがった岩は「高へぐり」と呼ぶそうです。また、佐竹の殿様がご来遊なされたとき、この海岸で鮑とりの様子をご覧いただいたそうです。

3 大切にしたいジオポイント

このような場所が八峰白神ジオパークには点在しています。これらは当ジオパークの特徴の一つであるように思えます。このようなポイントは地域住民の心の糧となる場所として大切にしていきたいし、そして、他県や他国の人たちにも紹介したいという気持ちもありません。

しかし、多くの人たちが訪れるようになると訪問者数に比例して周囲の雰囲気や壊されていく心配があります。ジオパークの運営に当たって突き当たるある種の壁でもありましょう。今後地域住民の智慧を出し合つてより良い方策を常に模索していかなければならぬと考えています。

八峰白神ジオパーク推進協議会 会長 工藤 英美

八峰白神ジオパーク推進協議会

〒0182612

秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116

旧岩館小学校内
TEL 0185-78-2427